

## 用語の解説（農業）

### （1）五十音順

<b>あ行</b>	
遺伝資源	植物・動物・微生物等あらゆる生物に由来する素材であって、現実の又は潜在的な価値を有するもの。例えば、植物では品種改良の素材として活用される作物
エコえひめ農産物	化学合成農薬・化学肥料を県が定めた基準から3割以上削減し、生産情報の公表と適正な管理体制のもとで生産されたことを愛媛県が認証した農産物
エコファーマー	平成11年7月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」第4条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該計画が適当である旨の認定を受けた農業者の愛称名
<b>か行</b>	
家族経営協定	家族で営農を行っている農業経営において、家族間の話し合いを基に経営計画、各世帯員の役割、就業条件等を文書にして取り決めたもの
グリーン・ツーリズム	農山漁村において自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動
荒廃農地	現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地
<b>さ行</b>	
集落営農	集落等地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産を共同して行う営農活動。転作田の団地化、共同購入した機械の共同利用、担い手を中心となって取り組む生産から販売までの共同化等、地域の実情に応じてその形態や取組内容は多様である。
食料自給率	我が国の食料全体の供給に対する国内生産の割合を示す指標 このうち、供給熱量（カロリー）ベースの総合食料自給率では、分子を1人・1日当たり国産供給熱量、分母を1人・1日当たり供給熱量として計算 また、生産額ベースの総合食料自給率では、分子を食料の国内生産額、分母を食料の国内消費仕向額として計算
スマート農業	ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用して超省力・高品質生産を可能にする農業
<b>た行</b>	
地産地消	国内の地域で生産された農林水産物（食用に供されるものに限る。）を、その生産された地域内において消費する取組。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取組等を通じて、6次産業化にもつながる。
<b>な行</b>	
認定農業者（制度）	農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が地域の実情に即して効率的・安定的な農業経営の目標等を内容とする基本構想を策定し、この目標を目指して農業者が作成した農業経営改善計画を認定する制度
農業産出額	農業生産活動による最終生産物の総産出額。農産物の品目別生産量から、二重計上を避けるために、種子、飼料等の中間生産物を控除した数量に、当該品目別農家庭先価格を乗じて得た額を合計したもの
農業水利施設	農地へのかんがい用水の供給を目的とするかんがい施設と、農地における過剰な地表水及び土壌水の排除を目的とする排水施設に大別される。 かんがい施設には、ダム等の貯水施設や、取水堰等の取水施設、用水路、揚水機場、分水工、ファームpond等の送水・配水施設があり、排水施設には、排水路、排水機場等がある。このほか、かんがい施設や排水施設の監視や制御・操作を行う水管理施設がある。
農地中間管理機構	農用地等を貸したいという農家（出し手）から、農用地等の有効利用や農業経営の効率化を進める担い手（受け手）へ農用地利用の集積・集約化を進めるため、農用地等の中間的受け皿となる組織
農地の集積・集約化	農地の集積とは、農地を所有し、又は借り入れること等により、利用する農地面積を拡大すること 農地の集約化とは、農地の利用権を交換すること等により、農地の分散を解消することで農作業を連続的に支障なく行えるようにすること
農福連携	農業分野と福祉分野が連携して、障がい者や高齢者等の農業分野への雇用・就労を促進する取組

は行	
人・農地プランの実質化	農業者の年齢や後継者の有無を「見える化」した地図を用いて、地域の農業者が話し合い、将来の農地利用を担う経営体の在り方を決めていく取組
や行	
遊休農地	農地法第 32 条第 1 項各号のいずれかに該当するもので、「現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地（第 1 号）」、「その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地（第 2 号）」
ら行	
6 次産業化	農林漁業者等が必要に応じて農林漁業者等以外の者の協力を得て主体的に行う、1 次産業としての農林漁業と、2 次産業としての製造業、3 次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組

(2) アルファベット順

A	
AI	Artificial Intelligence の略で、人工知能のこと。学習・推論・判断といった人間の知能の持つ機能を備えたコンピュータシステム
G	
GAP	Good Agricultural Practice の略で、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組
GLOBALG.A.P.	ドイツの Food PLUS GmbH が策定した第三者認証の GAP。青果物及び水産養殖に関して GFSI 承認を受けており、主に欧州で普及 *GFSI とは Global Food Safety Initiative の略で、世界食品安全イニシアティブのこと。グローバルに展開する食品事業者が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け様々な取組を行う機関。平成 12（2000）年 5 月に、The Consumer Goods Forum（CGF：世界 70 か国、約 400 社のメーカー、小売事業者、サービス・プロバイダーによる国際的な組織。）の下部組織として発足
I	
ICT	Information and Communication Technology の略。情報や通信に関する技術の総称
IoT	Internet of Things の略で、モノのインターネットのこと。世の中に存在する様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りして、自動認識や自動制御、遠隔操作等を行うこと
S	
SDGs	平成 27（2015）年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、令和 12（2030）年を期限とする国際社会全体の開発目標。飢餓や貧困の撲滅、経済成長と雇用、気候変動対策等包括的な 17 の目標を設定。法的な拘束力はなく、各国の状況に応じた自主的な対応が求められる。 国では、平成 28（2016）年 5 月に、SDGs の実施のために閣議決定で「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置。同年 12 月に SDGs 実施のための我が国のビジョンや優先課題等を掲げた「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を、平成 29（2017）年 12 月には国の SDGs モデルの発信に向けた方向性や主要な取組を盛り込んだ「SDGs アクションプラン 2018」を同本部で決定。SDGs は Sustainable Development Goals の略
U	
UJI ターン	いったん大都市圏に流出した地方出身者が出身地へ帰住する U ターン、地方出身者が出身地まで戻らず、近くの中核都市等で職を得て安住する J ターン、都市圏出身者が地方に職を得て定住する I ターンの総称

## 用語の解説（林業）

### （1）五十音順

<b>あ行</b>	
育成単層林	森林を構成する樹木の全部又は大部分を一度に伐採し、その後一斉に植林を行うこと等により、樹齢や樹高のほぼ等しい樹木から構成された森林
育成複層林	森林を構成する樹木を部分的に伐採し、その後植林を行うこと等により、樹齢や樹高の異なる樹木から構成された森林
えひめ山の日	森林と共生する文化を県民総ぐるみで創造するため、平成 16 年に「えひめ山の日」を制定した。森林に木が立ち並ぶイメージから 11 月 11 日としている。
エリートツリー	樹形や材質など優れた特長を持った木として選抜されたもの同士を、人工交配により掛け合わせて得られたもののうち、さらに優れた特徴をもったものとして選ばれた木の総称
<b>か行</b>	
間伐	育成段階にある森林において、樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残存木の成長を促進する作業
航空レーザ計測	航空機等に搭載されたレーザスキャナから照射するレーザによる反射を利用して地形等を計測する方法
更新	伐採等により樹木等がなくなった箇所に、人工的な植栽や自然の力を活用して、後継の森林を仕立てること
高性能林業機械	作業の効率化や身体への負担の軽減を図るため用いる機械のうち、従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて性能が著しく高く、複数の作業工程を行うことができる林業機械の総称
<b>さ行</b>	
再造林	人工林を伐採した跡地に再び人工的に植林などを行うこと
下刈り	植栽した苗木の生育を妨げる雑草や灌木を刈り払う作業
自伐林家	植栽から伐採までの一連を自力で行う林家のこと
主伐	伐期（一定の林齢）に達した樹木を収穫目的で伐採すること。間伐と異なり、伐採後、更新を伴う。
針広混交林	針葉樹と広葉樹が混合した森林のこと。針葉樹と広葉樹が生育していることから土砂の流出や地力低下の防備に利点がある。
森林経営管理制度	市町が主体となり、森林所有者から適正な管理が行えない森林を預かった上で、民間林業事業者と連携のもと、森林資源の有効活用と森林の多目的機能の向上を目的とした経営管理を進める制度
森林認証	独立した第三者機関が、森林経営の持続性や環境保全への配慮等に関する一定の基準に基づいて森林または経営組織などを認証するとともに、認証された森林から産出される木材及び木材製品を分別し、認証材として表示管理することにより、消費者の選択的な購入を通じて、持続可能な森林経営を支援する仕組み
水源涵養機能	森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。また雨水が森林土壌を通過することで水質が浄化される。
スマート林業	地理空間情報や ICT 等の先端技術を駆使し、生産性や安全性の飛躍的な向上、需要に応じた高度な木材生産を可能とする林業の総称
施業集約化	施業の効率化を図るため、隣接する複数の森林所有者が所有する森林を取りまとめて路網整備や間伐等の森林施業を一体的に実施すること。施業の集約化により、路網の合理的配置や高性能林業機械を使った作業が可能となることから、トータル的なコスト削減が期待できる。
<b>た行</b>	
大径材	末口（丸太の細い方の木口）径が 30cm 以上の丸太
タワーヤード	簡便に架線集材ができる人工支柱を装備した移動可能な集材機。急傾斜地での作業に向いている。
治山事業	森林の維持造成を通して、山地災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等を図る重要な国土保全事業

天然生林	自然の推移にゆだね、主として自然の力を活用すること（天然更新）により、保全・管理されている森林
特用林産物	本来、森林や原野から得られる産物のうち、一般木材を除いたものの総称。代表的なものとしては、しいたけ等のきのこ類、山菜類、竹材、桐材など
トラス	複数の三角形で構成する構造形式の総称
は行	
ハーベスタ	立木の伐倒、枝払い、玉切り（材を一定の長さに切りそろえること）の各作業と玉切りした材の集積作業を行うことができる自走式機械
媛すぎ・媛ひのき	JAS 規格に基づく、愛媛県独自の基準を満たす、品質や性能が確かなブランド材の名称
保安林	水源のかん養等特定の公共目的を達成するため、森林法に基づき農林水産大臣又は都道府県知事が指定した森林。伐採や土地の形質の変更が規制される。
ま行	
木育	子どもをはじめとするすべての人々が「木とふれあい、木に学び、木でつながる」取組のことで、人と木や森との関りを主体的に考える豊かな心を育むこと
木質バイオマス	「バイオマス」とは、生物資源（bio）の量（mass）を表す言葉であり、再生可能な生物由来の有機性資源のこと。その中で、木材からなるバイオマスを「木質バイオマス」と呼ぶ。主に、樹木の伐採や造材の時に発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮や鋸くずなどのほか、住宅の解体材や街路樹の選定枝などがある。
ら行	
林業イノベーション	厳しい地形条件等に起因する、3K林業（きつい・危険・高コスト）や、記憶・経験に頼る林業から脱却するため、ICT 等を活用し資源管理や生産管理を行う「スマート林業」や自動化機械の開発、早生樹等の育種などの技術革新により、伐採・搬出や造林の省力化・軽労化を図る取組
林業・木材産業産出額	農林水産省が発表する「林業産出額」（木材、薪炭、栽培きのこ類等の生産額）と、総務省・産業経済省が発表する「木材・木製日用品出荷額」（一般製材、集成材、木材チップ等の出荷額）の合計を県で集計したもの
林道	木材を主とする林産物を搬出するためや、林業経営に必要な資材を運搬するため、森林内に開設された道路
林福連携	「林業分野」と「福祉分野」が連携することで、福祉施設利用者が自信や生きがいを持てる社会参画を実現していく取組

(2) アルファベット順

C	
CLT（直交集成板）	ひき板を横に並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質材料
I	
ICT（情報通信技術）	用語の解説（農業）「ICT」を参照
L	
LPWA 通信	低消費電力（一度の給電で5～10年は無給電で稼働）、長距離通信（10kmを上回る通信が可能）、低通信速度（数 kbps～数百 kbps 程度）、低通信料金（月額数十円～数百円程度/1回線当たり）を特徴とする通信技術
U	
UJI ターン	用語の解説（農業）「UJI ターン」を参照



## 用語の解説（水産業）

<b>あ行</b>	
愛育フィッシュ	養殖魚のイメージアップのため、2012年（平成24年）3月に決定した本県の養殖魚の包括的なネーミング。愛称
愛育フィッシュ輸出促進共同企業体	通称オレンジウェーブ。県産水産物の輸出促進のため、販路拡大及び開拓を官民一体となって取り組む組織
イニシャルコスト	新しく事業を始めたり、機器等を導入したりする際にかかる費用のこと。初期費用ともいう。
伊予の媛貴海	愛媛で養殖しているスマのトップブランド。ブランド基準（魚体重2.5kg以上、脂肪含有率25%以上）を満たしたもの
インフラ	生活や産業などの経済活動を営む上で不可欠な社会基盤
<b>か行</b>	
外来生物	もともとその地域にいなかったのに、人為的に他の地域から入ってきたブラックバス等の生物のこと。強い魚食性と繁殖力をもっているため内水面漁業において問題となっている。
カワウ	カワウは、カツオドリ目ウ科に分類される鳥類の一種。内水面漁業において、アユ等を食害するため近年問題になっている。鶺鴒で使われているウはウミウ
漁家レストラン	漁家によって直接経営されており、自家生産したものや地域で生産されたものを提供する飲食店
漁業共済	漁業経営の安定のため、不漁等による漁獲金額の減少や自然災害などによって受ける損失を補てんする保険（共済）制度
漁業産出額	漁業生産活動の実態を金額で評価したもの。魚種別漁獲量・収穫量に魚種別平均価格を乗じて推計している。
漁業認証	水産資源や生態系などの環境にやさしい方法、持続可能で適切に管理されている漁業であることを認証する仕組
漁場改善計画	養殖漁場環境の維持・改善を通じて持続的な養殖生産を確保するため、漁業者自らが対象となる水域や養殖の種類を定め、施設や体制の整備などを図るための計画
魚食教育	水産物の消費拡大を図るため、魚を食べることに加え、魚の生産、流通、消費、環境及び文化などを体系的に学習すること
漁船保険	沈没、座礁、火災などの事故によって、漁船の船体、機関や設備に生じた損害や、漁船を救助するために要した費用などに対する保険
系統選抜	動植物の品種改良の基本的な方法のひとつで、1系統から数個体を選び、この数個体を1つの系統群として、優良系統を選ぶこと
<b>さ行</b>	
栽培漁業	卵から稚魚になるまでの一番弱い期間を人の手で守り育て、外敵から身を守れるようになったら放流し、自然の海で大きくなったものを漁獲する漁業
産業クラスター	新事業が次々と生み出されるような事業環境を整備することにより、競争優位を持つ産業が核となって広域的な産業集積が進む状態
3K	きつい、汚い、危険の頭文字からくる俗語。労働環境の悪い職場をさす。
資源管理型漁業	水産資源を適切に管理し、持続的に利用するため、漁獲規制等による資源の保全・回復を行う漁業
種苗	栽培・増養殖漁業のために人工生産又は天然採捕した水産動植物の稚魚・稚貝等の総称
常例検査	漁業協同組合の業務又は会計の状況について、常例として行う検査
シラスウナギ	ウナギ稚魚の別称。体長5cm前後で、体は透明。黒潮に乗って東アジア沿岸に回遊し、日本では12月ごろから春先かけ、河口部で漁獲される。
水福連携	水産業と福祉分野が協力して商品を作る取り組みなどを行うことで、水産業の人手不足の解消や障害者の働く場の拡大を行うもの
セーフティネット	経営安定化のため、漁業用燃油や養殖用配合飼料の価格高騰に備えて漁業者、養殖業者が加入する補てん制度
<b>た行</b>	
ダイバーシティ運営	多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することでイノベーションを生み出し、価値創造につなげていく組織運営

低魚粉飼料	魚粉配合率を減少させた飼料。魚粉に含まれる動物タンパクの代替として大豆絞り滓等の植物タンパクが使用される。
な行	
南海トラフ地震	駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100~150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震
ネームバリュー	世間での知名度
は行	
浜の活力再生プラン	漁業地域の活性化を目指し、で漁業所得を 5 年間で 1 割以上アップすることを目標に、「将来自分たちのあるべき姿」「取り組むべき課題」を整理したプラン
ピース貝	真珠の基となる核を挿入する時に用いる二枚貝の外殻膜の切片・小片を「ピース」と呼び、ピースを採取するためだけに用いられるアコヤガイのこと
干潟	海岸部に発達する砂や泥により形成された低湿地が、ある程度以上の面積で維持されている潮間帯
媛スマ	愛媛で養殖しているスマの総称。スマはスズキ目サバ亜目サバ科スマ属に分類される魚。愛媛県ではこのスマのブランド化のため、令和元年 11 月から愛媛で養殖したスマを「媛スマ」としてブランド化を進めている。
フィードバック	成果等を関係者に伝え、よりよい方向に導くこと
母貝	養殖真珠を生産するために母体となるアコヤガイ
ま行	
マーケットイン	消費者目線での商品の企画・開発を行い、生産者の都合でなく顧客が望む売れるものを作ること
モニタリング手法	水産資源の増減や魚体サイズなどを調べるため、漁獲情報の収集、仔稚魚調査を行う。
藻場	藻場とは、沿岸域に形成された様々な海草・海藻の群落のこと
や行	
遊漁者	レジャーを目的に海・川・湖沼で魚を取る者。遊漁はレジャーフィッシングとも言われる。
遊漁船業	船釣り業、磯渡し業などのこと。年に 1 回でも営利を目的として遊漁船業を営む場合は、県への登録が必要となる。
ら行	
6 次産業化	用語の解説（農業）「6 次産業化」を参照
わ行	
ワークシェアリング	雇用の維持・創出に加え、過重労働の防止を目的として、労働を多人数で分担して行うこと
ワークライフバランス	多様な働き方を推進することにより、仕事と生活の調和を図ること

## (2) アルファベット順

A	
AI	用語の解説（農業）「AI」を参照
D	
DX	Digital Transformation の略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確保すること
E	
EC	electronic commerce の略。コンピューターネットワークシステムを介して行われる商取引
H	
HACCP	食品の製造・出荷段階の工程上のリスクを予測・分析し、被害を未然に防ぐ方法。EU 等の海外へ水産物を輸出するために必要
I	
ICT	用語の解説（農業）「ICT」を参照
IoT	用語の解説（農業）「IoT」を参照
S	
SDGs	用語の解説（農業）「SDGs」を参照

## 愛媛県農林水産部

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4-4-2

農政企画局農政課 Tel: 089-912-2510

森林局林業政策課 Tel: 089-912-2585

水産局漁政課 Tel: 089-912-2605

